

iStorage NS100Tmご使用時の注意事項

この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用において、ご注意くださいことがございます。
誠におそれ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読いただきますようお願いいたします。
なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

● 本製品の各種マニュアルの入手方法について

本製品のユーザーズガイド、メンテナンスガイド、インストレーションガイド、BMC管理コンソールユーザーズガイドなどの各種マニュアルはEXPRESSBUILDER内に格納、または装置添付されています。なお、最新版のマニュアルは下記に掲載されておりますのでご参照ください。

<https://www.support.nec.co.jp/TopHWGuidanceContents.aspx>

- 「ハードウェア」の「型番・モデル名から探す」を選択
- モデル名 (NS100Tm) を記入し「モデル名で検索」を選択
- 検索結果からモデル名を選択
- 「製品マニュアル」を選択
- 該当モデルのユーザーズガイドを選択

● 本製品のファームウェアおよびソフトウェアの入手方法について

本製品の最新版の BMCファームウェアやBIOSファームウェア、ドライバーなどのアップデート情報は下記に掲載されておりますのでご参照ください。

<https://www.support.nec.co.jp/TopHWGuidanceContents.aspx>

- 「ハードウェア」の「型番・モデル名から探す」を選択
- モデル名 (NS100Tm) を入力し「モデル名で検索」を選択
- 検索結果からモデル名を選択
- 「修正情報・ダウンロード」を選択

● 最新のESMPRO/ServerManagerの入手方法について

以下のNECサポートポータルサイトから管理用PCにダウンロードしてください。

- ・ ESMPRO/ServerManager Ver. 7 ※iStorage NS100Tmでは、ご利用いただけません。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010110069>

インストール後、ESMPRO/ServerManagerセットアップガイドを参照して必要な設定を行ってください。なお、ESMPRO/ServerManagerのアクセス方式がRedfishの場合は、ESMPRO/ServerManagerのリモートコンソール機能、およびコンソールログ設定を利用できません。

● 最新の装置情報収集ユーティリティの入手方法について

障害解析に必要な情報を採取できるようにするために、装置情報収集ユーティリティを最新版へアップデートしてください。装置情報収集ユーティリティは、障害発生時にOS上からシステムイベントログ (SEL) などを採取するツールであり、障害解析に必要です。最新版へアップデートしない場合は障害発生時に必要な情報が採取できない場合があります。

[装置情報収集ユーティリティの最新バージョンおよび、ダウンロード先]

<https://www.support.nec.co.jp/GuidanceCategoryProductSearch.aspx>

その他 > 装置情報収集ユーティリティ

- ・ 装置情報収集ユーティリティ (Windows版 Ver 3. x. x)

● 低温環境での運用について

本製品には、環境温度の低温異常を検出した際に、ESMPRO/ServerAgentServiceがOSを自動的にシャットダウンする機能があります。

OSのプリインストール構成で出荷された場合、本機能は無効化されていますが、以下操作により意図せず有効化される場合があります。



CBZ-062978-002-04

1. EXPRESSBUILDERを用いてWindowsおよびESMPRO/ServerAgentServiceをインストールした場合。
2. Webに公開されている最新版のWindows向けESMPRO/ServerAgentServiceをインストール/アップデートインストールした場合。

低温異常を検出した際に自動的にシャットダウンを行う必要が無い場合、以下URLに公開されている設定変更パッチを適用してください

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010107685>

● BMC設定の初期化について

- ・ オフラインツールメニューの[BMC] - [Configuration Initialization]でBMC設定を初期化する場合は、初期化した後、他の設定は行わず、オフラインツールを終了してください。オフラインツールを終了することでシステムが再起動されます。システム再起動後にオフラインツールを起動しBMC設定内容を再設定してください。
- ・ BMC管理コンソールの[メンテナンス] - [工場出荷時デフォルトのリストア]でBMC設定を初期化する場合は、初期化した後、システムを再起動してください。システム再起動後にオフラインツールを起動しBMC設定内容を再設定してください。

● BMC管理コンソールで表示される電圧値について

本製品がアイドル状態の時、BMC管理コンソール上でセンサ「P_VCC_CPU」の値が0になる場合がありますが、これは正常な値です。

● BIOS SETUPのDMA Control Guaranteeメニューについて

BIOS SETUPの[Advanced] - [System Agent(SA) Configuration] - DMA Control Guarantee からカーネル DMA 保護機能を“Enabled(有効)”、または“Disabled(無効)”に設定できます。「カーネルDMA保護機能」については以下をご参照ください。

<<https://learn.microsoft.com/en-us/windows/security/information-protection/kernel-dma-protection-for-thunderbolt>>※(英語)

- ・ 本設定は“Enabled” (default設定) のままでご使用ください。
OSを新たにインストールする場合は、本設定が“Enabled”であることを確認してからインストールを行ってください。
- ・ 運用中に下記のMicrosoftの情報に記載されている問題が発生する可能性があります。
該当する問題が発生した場合は、本設定を“Disabled”に変更してください。
<<https://learn.microsoft.com/en-us/troubleshoot/windows-server/performance/stop-code-driver-verifier-dma-violation>>
※本設定を“Disabled”に変更しても改善されない場合は、BIOS SETUPの[Advanced] - [System Agent(SA) Configuration] -VT-dを“Disabled(無効)”に変更してください。

● BMCファームウェアのリモートメディア機能にて、ファイル共有サーバー上のイメージファイルを仮想メディアとして使用時にWindowsの「ディスクの管理」で同一のボリュームが2つ表示される場合について

BMC管理コンソールのメディアリダイレクション設定で、ファイル共有サーバー上の仮想イメージファイルを読み込ませてホストのWindows OSに認識させると、「ディスクの管理」ツールで同一のボリュームが2つ表示される場合があります。本問題は、表示だけの問題であり、現象が発生した際には、画面の操作タブから「最新の情報に更新(F)」を実施すると正常に表示されるようになります。

● BMCのShared LAN機能について

Shared LAN機能を使用する場合は、必ず以下の手順に従って設定を行ってください：

LAN1ポートをネットワークに接続します。

オフラインツールメニュー (Server Configuration Utility) を開きます。

[BMC] - [Configuration] - [Network] - [Management LAN]の順に選択します。

[Management LAN]の設定をShared LANに変更します。

設定後、60秒待ってからBMCリセットを実施してください。

● **BMC管理コンソールでの仮想KVMビューアの使用について**

BMC管理コンソールで仮想KVMビューア使用時に管理PCでWindowsキーを入力した場合に正しく動作しない場合があります。Windowsキーを使用する場合は、仮想KVMビューアの「Send Keys」メニューから「Right Windows Key」または「Left Windows Key」を選択してください。

● **BMC管理コンソールでの設定バックアップ/リストアの使用について**

・ 設定のバックアップ:

BMC管理コンソールで「設定のバックアップ」を行う際、『認証』にはチェックを入れないでください。「外部ユーザー設定」、「PAMオーダー設定」、「ユーザー管理」で設定を変更している場合は、その設定内容を記録し保管してください。

・ 設定のリストア:

必要に応じて「設定のリストア」を行った後、記録した内容を参照して「外部ユーザー設定」、「PAMオーダー設定」、「ユーザー管理」の再設定を行ってください。

・ その他の設定項目:

上記以外で「設定のバックアップ」の対象外となっている設定項目については、最新版のBMC管理コンソールユーザズガイドの「5. リモート管理コンソールの使い方」の「設定のバックアップ/リストア」をご参照いただき、必要に応じて設定内容の記録と再設定を行ってください。

・ ユーザーズガイドの入手方法:

最新版のBMC管理コンソールユーザズガイドの入手方法は、本書の冒頭に記載している「本製品の各種マニュアルの入手方法について」をご参照ください。

● **BMC管理コンソールでのシステムインベントリにて表示されるL1キャッシュについて**

BMC管理コンソールのシステムインベントリにてプロセッサ情報のL1キャッシュは、命令キャッシュのサイズを示しています。L1データキャッシュのサイズを確認するには、以下の手順に従ってください:

- ・ BIOSセットアップユーティリティ (SETUP) を開きます。
- ・ [Advanced] - [CPU Configuration]の順に選択します。
- ・ L1 Data Cacheの項目でサイズを確認します。

なお、OSのタスクマネージャーでのL1キャッシュは、命令キャッシュとデータキャッシュの合計サイズが表示されます。

● **「ネットワーク インターフェイス“(デバイス名)” はリセットを開始しました。」というWindowsログについて**

OSが高負荷状態時、Windowsログに、「ネットワーク インターフェイス“(デバイス名)” はリセットを開始しました。」という警告のイベント(ソース:NDIS、ID:10400)が登録されることがあります。

・ デバイス名が、“AMI Remote NDIS6 based Device”の場合:

BMC ファームウェアのアップデートに使用するAMI Remote NDIS6 based Deviceが一時的に使用できなかったことを示しますが、自動的に復旧しているため運用には支障ありません。

・ デバイス名がオンボードLAN(Intel(R) I210 Gigabit Network Connection)、または、LANカードの場合:

ネットワーク接続が一時的に中断し、通信に失敗している可能性があります。自動的に復旧しているため運用には支障ありません。頻発する場合は、高負荷状態を発生させているアプリケーションの観点で調査し、OSの負荷軽減を実施してください

● **オンボードRAID コントローラーの使用時の通知について**

オンボードRAID コントローラーを有効とし、ホットスワップ対応の3.5型HDDケージまたは2.5型HDDケージを使用したRAID構成で「初期化」や「ボリュームデータの検証」が実行された場合、システムイベントログ (SEL) に以下の内容が登録されます。また、Global HDDランプ2とDISKランプ2が点滅しますが、動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

イベントジェネレータ : 10h
イベント内容 : デバイスベイ 情報
Rebuild/Remap in progress

OSがプリインストールされた装置の初回電源投入後、または、EXPRESSBUILDERを用いてOSをセットアップした後に、バックグラウンドでRAIDの初期化が動作する場合があります。この場合、OS起動直後、Global HDDランプ2とDISKランプ2が約5秒間点滅しシステムイベントログ (SEL) が登録される場合がありますが、動作上の影響はありません。

● オンボードRAID コントローラー使用時の注意事項について

オンボードのRAID コントローラー構成かつ、SATA 光ディスクドライブ接続構成において、以下の操作を行った場合、システムのイベントログにソース:iastorE、ID:4155の警告メッセージが登録されますが、システム動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

警告メッセージが登録される操作:

- 光ディスクの取り出し
- CD-RまたはCD-RWのブランクメディアへのアクセス
- CD-RW 媒体の消去

● Windows OS サーバーマネージャー上の赤い警告表示について

本製品の出荷時状態で、OS起動後にサーバーマネージャーを表示すると、サービスに関する警告が赤色で表示されます。警告の内容が、edgeupdateサービスに関するものである場合、動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

本警告の詳細については、下記URLのマイクロソフト社の情報を参照してください。

Windows Server 2022 において、サーバーマネージャー上に edgeupdate サービスに関する警告が表示される

<https://jpwinsup.github.io/blog/2021/09/29/UserInterfaceAndApps/SrvMngWithEdge/>
(2024/7/1現在)

● セキュアブート証明書リセット後の復旧手順について

セキュアブートが有効に設定され、以下の更新プログラムが適用済みのWindows Server環境においてメンテナンスガイドに記載されている「BIOS設定 (NVRAM) のクリア」または「Enroll All Factory Default Keys」を実行した場合、セキュアブート証明書が工場出荷時設定に戻るため以下の事象が発生する可能性があります。

対象Windows Server OS環境/更新プログラム

- ・Windows Server 2022 : KB5066782 (2025年10月14日以降)

事象

- ・POST終了後に「Secure Boot Violation」画面が表示され、OSが起動できない。
- ・Windows Server OS起動時に、BitLocker回復キーの入力を求められる。

「BIOS設定 (NVRAM) のクリア」または「Enroll All Factory Default Keys」を実行し、上記事象が発生した場合は、以下の2つの手順を実施し、復旧してください。

1. セキュアブート証明書の更新について

以下の資料を参照し、「4. セキュアブート証明書の更新方法」の手順を実行してください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140110352>

2. CVE-2023-24932 (セキュアブートのセキュリティ機能のバイパスの脆弱性) の軽減策有効化後に発生する問題と対処方法について

以下の資料を参照し、「6. 復旧方法」の手順を実行してください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140110302>

● iStorage NS100Tm ユーザーズガイドの読み替えについて

iStorage NS100Tmのユーザーズガイドに記載の以下の部分を読み替えてください。

1章 概要→5.5.2 STATUSランプ1,2

＜ユーザーズガイドの記載＞

STATUS ランプ 1,2 の状態		意 味	対処方法
STATUS ランプ 1	STATUS ランプ 2		
消灯	アンバー色に点滅	(記載無)	(記載無)

＜読み替え＞

STATUS ランプ 1,2 の状態		意 味	対処方法
STATUS ランプ 1	STATUS ランプ 2		
消灯	アンバー色に点滅	(本装置ではディスクドライブの故障検知はSTATUSランプで表示されません。ディスクドライブ故障については下記等でご確認下さい。 RAIDカード : Universal RAID Utility SW RAID : Intel(R) Virtual RAID on CPU ユーティリティ)	保守サービス会社に連絡してください

1章 概要→5.5.3 Global HDDランプ1,2

＜ユーザーズガイドの記載＞

Global HDDランプは、内蔵のハードディスクドライブまたは光ディスクドライブの状態を示します。

＜読み替え＞

Global HDDランプは、内蔵のハードディスクドライブまたは光ディスクドライブの状態を示します。オンボードRAIDコントローラーを使用した3.5型Fixed HDDケージ構成において、ディスクの故障やリビルド状態を確認するためには「Intel(R) Virtual RAID on CPU ユーティリティ」をご利用ください。

＜ユーザーズガイドの記載＞

Global HDDランプ1,2の状態		構成	意味
Global HDDランプ1	Global HDDランプ2		
緑色に点灯/点滅	アンバー色に点滅	・RAIDコントローラーを使用しRAID構成にしている場合	リビルド中です。

＜読み替え＞

Global HDDランプ1,2の状態		構成	意味
Global HDDランプ1	Global HDDランプ2		
緑色に点灯/点滅	アンバー色に点滅	・3.5型HDD搭載モデルでオプションのRAIDコントローラーを使用したRAID構成で、BIOSセットアップユーティリティからリビルドを実行した場合	リビルド中です。
緑色に点灯/点滅	アンバー色に点滅	・2.5型HDD搭載モデルでオンボード RAIDを使用しRAID構成にしている場合	リビルド中または初期化/検証 動作中です

【ご注意】

ここからの注意事項は、本体装置のBMCファームウェア、BIOSファームウェアにより対象が異なります。ご使用の本体装置のファームウェアはBIOSセットアップユーティリティで確認できます。詳細はメンテナンスガイドを参照してください。

対象となるBMCファームウェア、BIOSファームウェアのバージョンは下記です。

1. 00. 97が適用された本体装置の注意事項
2. BMCファームウェアのバージョン00. 97、01. 00が適用された本体装置の注意事項
3. BIOSファームウェアのバージョンF03が適用された本体装置の注意事項
4. BIOSファームウェアのバージョンF03、F04が適用された本体装置の注意事項
5. BIOSファームウェアのバージョンF03、F04、F05が適用された本体装置の注意事項

【対象バージョンと注意事項】

1. BMCファームウェアのリビジョン 00. 97が適用された本体装置の注意事項

- オフラインツールのServer Configuration Utilityにて、ECO > Statistics Values の表示画面でPower Consumptionの最大値が使用している電源のワット数を越えた値を示す場合について
オフラインツールのServer Configuration Utilityにて、ECO > Statistics Values の表示画面でPower Consumptionの最大値が使用している電源ユニットのワット数を越えた値を示す場合があります。
冗長電源(標準搭載)ユニット：250W , N8181-182 冗長電源ユニット：550W
使用している電源ユニットにて、上記の値を越えている場合、同画面内のReset “Power Consumption” Statisticsを実行して、履歴をクリアしてください。

- IPMI over LAN設定がDisableでShared LAN設定を行うと、Network設定の取得/変更ができない場合について

IPMI over LANがDisable(出荷時のデフォルト設定)の設定でオフラインツールからShared LANを有効にした場合、BMCリセットすると以降オフラインツール上でネットワーク設定の取得/変更ができなくなります。

本現象が発生した場合、BMC管理コンソールにログインし、一時的に IPMI over LAN設定をEnableにすることで参照/変更が可能となります。もし、BMC管理コンソールにログインできない場合、オフラインツールのServer Configurationにて、BMC > Configuration Initializationを実行し工場出荷時設定に戻した後に、再設定してください。

2. BMCファームウェアのリビジョン 00. 97, 01. 00が適用された本体装置の注意事項

- Windows Server IoT 2022の起動後、Windows OSのデバイスマネージャーにてHID準拠マウスデバイスに「！」が表示される場合について

本現象が発生した場合、BMC管理コンソールで仮想KVMビューアを使用する際に、リモートからのマウス入力が動作しなくなります。この現象を解消するため、以下の手順を実施してください。

1. 次のいずれかの方法でBMC RESETを実行してください。
 - ・ 本体装置のBMC RESETスイッチを押します。
 - ・ BMC管理コンソールから「メンテナンス」-「システム操作」-「BMCリセット」を選択します。
2. BMCリセットが完了した後、仮想KVMビューアの再接続を行います。

BMCリセットが完了したことを確認するには、まずステータスランプ1と2が両方点灯し、その後ステータスランプ1のみが点灯していることを確認してください。STATUSランプの詳細については、本製品のユーザズガイドをご参照ください。

- Windows Server IoT 2022の起動後、Windows OSのデバイスマネージャーにてVirtual Mouse Gadgetに「HIDキーボードデバイス」が表示される場合について

(「表示(V)」にて「デバイス(コンテナ別)(C)」を選択時)

本現象が発生した場合、BMC管理コンソールで仮想KVMビューアを使用する際に、リモートからのマウス入力が動作しなくなります。この現象を解消するため、以下の手順を実施してください。

1. デバイスマネージャーを開き、Virtual Mouse Gadgetの「HIDキーボードデバイス」を選択
2. 右クリックして「デバイスのアンインストール(U)」を選択

3. 「操作(A)」メニューから「ハードウェア変更のスキャン(A)」を選択。
現象が解消するまで同じ手順を繰り返し実施してください。

3. BIOSファームウェアのバージョン F03が適用された本体装置の注意事項

- オンボードRAID コントローラー有効時、内蔵の光ディスクドライブにセットした一部のメディアから起動できない

EXPRESSBUILDER DVD から起動するときは、USB接続の光ディスクドライブをご使用ください。
内蔵の光ディスクドライブでは EXPRESSBUILDER DVD から起動できません。

対策としてはBIOSファームウェアのバージョンF04以降に更新してください。

4. BIOSファームウェアのバージョン F03, F04が適用された本体装置の注意事項

- システムイベントログ(SEL)に登録される「ファームウェア例外」について

以下のログがシステムイベントログ(SEL)に登録される場合があります。

イベントジェネレータ : 16h

イベント内容 : その他 発生

マネージメントエンジンの状態変化を検出した

イベント詳細 : ファームウェア例外

通報サービスでは、上記のログにより以下の内容が通報されます。

ファームウェア例外を検出しました。

拡張エラーコード : 0x01

センサ番号 : 17h

位置 : Management Controller Firmware 0

本イベントは誤った検出です。動作上の影響はありませんが、対策としてはBIOSファームウェアのバージョンF05以降に更新してください。

5. BIOSファームウェアのバージョン F03, F04, F05が適用された本体装置の注意事項

- メモリボードの動作周波数が2000MHzとなる場合について

2025年10月中旬以降、下記メモリボードについてサポート対象ベンダーが追加されます。

-N8102-757 : 16GB増設メモリボード(1x16GB/U)

16GB Unbuffered DIMM, DDR5-4400, ECC 付き

-N8102-758 : 32GB増設メモリボード(1x32GB/U)

32GB Unbuffered DIMM, DDR5-4400, ECC 付き

F53より古いBIOSで異なるベンダーのメモリボードが搭載された場合、メモリボードの動作周波数が2000MHzとなる場合があります。対策としてはBIOSファームウェアのバージョンF53以降に更新してください。

メモリボード動作周波数の確認方法は、本製品のメンテナンスガイド(2章 便利な機能-1.2.1 Main)をご参照下さい。本製品のメンテナンスガイドの入手方法については、本書の冒頭に記載している「本製品の各種マニュアルの入手方法について」をご参照ください。

■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先 : ファーストコンタクトセンター

TEL : 0120-5800-72

受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

